

医療安全管理室

GRM 田中江里／専従医療安全管理者 宮坂善之，東山久美／医療安全管理室 山梨貴子

1. 展望

医療安全管理室では、全職員から報告されるインシデント事例の収集・分析とその根本原因究明を行い、再発防止策の立案と確実な実行を支援している。

また、スタッフの医療安全に関する主体的参加の促進、日本医療機能評価機構医療事故収集事業や医療の質安全学会の医療安全全国共同行動への参加など、広く医療の質と安全の向上に努めている。

2012年は、JCI (Joint Commission International) 認証を取得するという病院目標に向け、医療安全管理体制をより強化し、インシデントレポートの収集・集計・分析・改善に力を注いだ。

2012年のインシデントレポート件数は4,476件であった。事故レベル別発生件数は、ニアミス（レベル0～1）が2,629件（58.7%）、有害事象（レベル2～4a）は1,822件（40.7%）、警鐘事象（レベル4b～5）が24件（0.6%）となった。

事故の概要別で見ると、療養上の世話と薬剤に関する事例が多く、療養上の世話の事例の中では転倒転落件数が6割以上を占める。急性期病院における転倒転落の要因は、排泄に関連するベッドサイドでの事故が多い特徴があり、当院でも同様の傾向がみられることから、看護部を中心とし、患者アセスメントの強化と防止対策の検討を行っている。

報告者職種別で見ると、看護師（准看護師・保健師・助産師を含む）が最も多い一方、医師の報告数は5～10件（月）と少ない。医師が報告する事例には有害事象の割合が多い傾向があることから、医療安全管理室が有害事象を早期に把握・介入し、組織的な改善に結び付けられるよう、医師の報告数増加に向け、ジェネラルリスクマネージャーが中心となり診療部長会、医局会での事例共有と報告推進を行っている。

医療安全は、医療従事者と患者（市民）による共

同行動であると言われている。患者が安全に安心して医療を受けられるために、医療安全管理室が当院の安全文化構築に向けたリーダーシップを発揮できるよう、日々努力していきたい。

2. 事故防止活動

2012年の主な活動は、JCI認証のための患者安全マニュアルの作成・整備と改善活動であった。

JCIでは、国際患者安全目標として、患者の正しい確認、効果的なコミュニケーションの促進（口頭指示の適切な運用）、ハイリスク薬の正しい管理と使用、侵襲的処置・手術時のマーキングとタイムアウトの手順、院内感染の防止、転倒による損傷の防止、の6項目が定められており、それぞれの手順順守率のモニタリングと結果の共有、改善に向けた活動を本格的に開始している。

改善活動の一環として、副院長である田中江里医師のジェネラルリスクマネージャーの就任、医療安全管理者の増員を行い、医療安全管理室の体制を強化した。また、当院は急性期でハイリスクな治療・処置が行われているという背景から、院内で発生したインシデント事例の中でも特に有害・警鐘事象について、月1回のMRM委員会のみならず、診療部長会・医局会でも事例を共有し、特に医師の医療安全活動への意識向上を図っている。

今後も、全職員が患者安全に対する意識を高め、有害・警鐘事象の発生を減らすことができるよう安全管理活動を推進していく。

1. 国際患者安全目標に基づく手順の順守状況チェック

国際患者安全目標で定められた6項目について、順守状況の量的調査（アンケートなど）を行い、改善委員会（月1回）で発表し、順守状況の共有を図った。

2. 院内ラウンド

国際患者安全目標の6項目の順守状況を確認するため、多職種による院内ラウンド(月1回 17時30分～18時)を行い、順守状況の目視チェックと指導を行った。

3. 医療事故発生時の対応

当院では、インシデントレベル4b以上の事例(永久的な機能の喪失、予期せぬ死亡)、もしくは手術部位・手順・患者の取違い、乳幼児の誘拐または取り違いを警鐘事象と定義する。2012年の警鐘事象は24例であった。

警鐘事象発生時は、事例発生後14日以内に根本原因分析を行うこと、さらにその14日後に改善計画を立案することを院内規定で定めており、医療安全管理室は事例発生時の根本原因分析を各部署が自主的に実行できるよう支援を進めている。今後も、根本原因分析と改善策の立案・実行を各部署で主体的に実行できるよう、継続し支援をおこなう。

4. 学術成績

なし

5. 医療安全に関する職員教育

2012年の医療安全研修は計6回であり、そのうち主に新入職者を対象とした研修が5回、全職員対象のテーマは1回(末梢神経損傷の防止策)となり、職員の研修参加率は全体で64%となった。

2013年に向けて、伝達講習の導入や医局会などでの資料配布、特に医師を対象とした研修会の企画などをジェネラルリスクマネージャーの支援のもと、計画的に実施し、参加率の向上につなげたい。